十五年六十一號布告ヲ以テ本條ヲ改正ス

第二期　七月三十一日限
三月一日ヨリ六月中檢査濟石數ニ係ル稅額ノ半數

第二十一條　但書增加

但事故アリテ酒もとノ不用ニ屬シタルモノヲ同業ノ者ニ限リ賣渡スハ此限ニアラス

第三十二條　但書刪除

右奉　勅旨布告候事

○明治十五年十二月二十七日第六十一號布告

明治十三年九月第四拾號布告酒造稅則左ノ通改正追加ス

但第三條改正ハ明治十六年十月一日ヨリ施行ス

第三條

免許ヲ受ケタル者ハ免許稅及造石稅ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ

酒造免許稅　金三拾圓

酒造場一箇所ニ付

酒類造石稅

一類壹石ニ付　金四圓

二類壹石ニ付　金五圓

三類壹石ニ付　金六圓

第四條二項三項

酒類製造新規願ノ者ハ造石高左ノ制限以上ニアラサレハ免許セス

清酒　百石

濁酒　拾石

一類（清酒濁酒ヲ除ク）二類三類　五石

新ニ酒造營業ヲナサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ以テ願出ヘ

シ

第五條

酒造營業人不在又ハ事故アル時ハ代人ヲ置キ此規則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ

第十條二項

廢業ノ際未製成ノ酒類ヲ所持スル者ハ其節管廳ヘ申出檢査ヲ受ケ現石數ニ付納稅スヘシ

但未製成ノ酒類ヲ營業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上免許ノ者其一箇所以上ヲ廢シ尙存セル酒造場ヘ其酒類ヲ移ス時ハ管廳ヘ屆出且製成ノ上檢査ヲ受クヘシ

第二十二條

他ノ依托ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非ル者ニ酢及ヒ酒類ヲ製造スル爲メ酒造場ヲ貸スヲ許サス

第二十三條

檢査未濟ノ酒類ヲ賣捌キ貸與讓與若クハ自家ノ所用ニ消費スルヲ許サス

檢査既濟ノ酒類ヘ檢査未濟ノ酒類ヲ混和スルヲ許サス

第三十一條

酒類石數ノ檢査ヲ受ケスシテ之ヲ賣捌キ又ハ貸與讓與シタル者ハ其代價ヲ追徵シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ

但第二十一條但書ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第三十二條

酒類ヲ隱蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ

第三十四條

第十四條又ハ第二十條ノ屆出ヲ怠リタル者第五條第七條第二十八條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十五條

第六條第二十五條第二十六條第二十七條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條ヲ犯シテ檢査ヲ受ケサル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス

第三十六條

第十條第二項第二十一條第二十二條第二十三條第二項ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ其製造酒類ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ

但第二十三條第二項ノ酒類ハ總石數ヲ沒收ス

第三十七條

此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第三十八條

酒造營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

酒造稅則附則

第一條　自家用料ノ酒類（飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シ及ヒ其他ノ用ニ供スルモノ）ヲ製造スル者ハ管廳ヘ屆出製造免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八拾錢ヲ納ムヘシ

第二條　免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條　自家用料ノ酒類ハ一家內ニ於テ一期製造高壹石（二種以上製造スル者ハ其總石數ヲ合算ス）ヲ超ユルヲ得ス若シ之ヲ超ユル時ハ總テ水則ニ從フヘシ

第四條　自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家ノ外ニ於テ之ヲ製造スルヲ得ス

第五條　自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ス

第六條　自家用料ノ酒類ヲ製造スル者免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改

名轉居セシ時ハ管廳ニ申出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第七條　自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ檢査スヘシ

第八條　第一條第三條第四條第五條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ

第九條　此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條ヲ適用ス

右奉　勅旨布告候事

○醡麴營業稅則

○明治十三年九月廿七日第四十一號布告

醡麴營業稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

別冊

表紙

醡麴營業稅則

醡麴營業稅則

第一章　免許鑑札　營業稅

第一條

凡ソ醡麴（釀造酒類ノもと）ヲ製造シテ營業セントスル者ハ其旨管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ

醡麴營業稅　金五拾圓

第二條

營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條

一期中何月ニ新規免許ヲ受クルモ營業稅ハ直ニ管廳ヘ納ムヘシ

第四條

免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管廳ヘ屆出ヘシ

第五條

販賣ノ節ハ其石數幷ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管廳ヘ差出シ檢査ヲ受クヘシ

第六條

免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條

免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請

十五年六十二號布告ヲ以テ本條ヘ第二項ヲ追加ス

フヘシ

第八條

免許ヲ受ケタル者ハ醤麹賣捌所ト書シタル標札ヘ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戸外ニ掲出スヘシ

第二章　禁令　罰令

第九條

免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條

免許鑑札ヲ受ケス醤麹ヲ營業スル者ハ科料トシテ其營業稅二倍ノ金額ヲ徵スヘシ

第十一條

前明條ノ外販賣ノ節石數幷ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ壹圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル金額ヲ徵スヘシ

十四年七十二號布告罰例處分方參照スヘシ

十五年六十二號布告ヲ以テ第十二條ヨリ第十五條迄ヲ追加ス

○明治十五年十二月二十七日第六拾二號布告

明治十三年九月第四拾一號布告醫麹營業税則左ノ通追加ス

第五條二項

醫麹及ヒ仕込米諸帳簿倉庫納屋等主任官隨時之ヲ檢査スヘシ

第十二條

醫麹營業場ノ中ニ於テハ酒類受賣醫麹受賣酢造營業ヲ爲シ又ハ酒類醫麹ヲ除ク製造スルヲ許サス

第十三條

第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スベシ

第十四條

此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第十五條

醫麹營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

右奉　勅旨布告候事

○人民ノ上書一般公益ニ關スル者ハ建白トシテ取扱フ

○明治十三年十二月九日第五十三號布告

凡ソ人民ノ上書一般ノ公益ニ關スルモノハ何等ノ名目ヲ以テスルニ拘ハラス渾テ建白ト爲シ元老院ニ於テ取扱ヒ候條管轄廳ヲ經由シテ同院ニ差出スヘシ此旨布告候事

○集治監ニ入ルヘキ囚人區分及其費用支出方

○明治十四年三月八日第十七號布告

集治監ニ入ルヘキ囚徒幷ニ其費用ノ區分當分ノ内左ノ通相定メ本年七月ヨリ施行候條此旨布告候事

第一條

集治監ニ入ルヘキ囚徒ハ刑期終身ノ者及ヒ國事犯刑期五年以上ノ者トス其費用府縣獄ニ拘留中ノ費用幷ニ集治監ニ押送ノ費用トモハ國庫ヨリ支給スヘシ

第二條

府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在ル者ノ費用ハ其刑ヲ宣告セシ地方ノ地方税ヲ以テ支辨スヘシ

○商船内犯罪取扱規則

○明治十四年十二月十五日第六十五號布告

商船内犯罪取扱規則別紙ノ通制定ス

右奉　勅旨布告候事

別紙

商船内犯罪取扱規則

第一條　何人タリトモ商船内ニ於テ重罪輕罪アルヿヲ認知シ又ハ重罪輕罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ船長ニ告訴告發ヲ爲スヿヲ得

第二條　船長告訴告發ヲ受ケタル時又ハ重罪輕罪ノ現行犯アルヿヲ知リタル時ハ其事件ニ付假ニ訊問檢證ノ處分ヲ爲シ且證憑及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ集取シ調書ヲ作ルヘシ但調書ヲ作ルヿ能ハサル時ハ第三條ニ記載シタル官吏ニ其申立ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ立會人二名以上アルヲ要ス

第三條　船長ハ證憑及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ取纒メ被告人ト共ニ該船碇泊又ハ着港ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ引渡スヘシ若シ外國ノ港埠ニ着シタル時ハ其地駐劄ノ領事ニ之ヲ引渡スヘシ

○重罪裁判所管轄區畫

○明治十四年十二月廿八日第七十八號布告

重罪裁判所管轄區畫別紙ノ通相定メ明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

但治罪法第七拾二條ニ從ヒ管内便宜ノ裁判所ニ於テ一ケ所又ハ數ケ所開廳スヘシ

右奉　勅旨布告候事

別紙

重罪裁判所管轄

東京重罪裁判所

管轄

東京始審裁判所管轄ノ地方

神奈川重罪裁判所

同

横濱始審裁判所管轄ノ地方

新潟重罪裁判所

同

新潟　高田　長岡　新發田始審裁判所管轄ノ地方

埼玉重罪裁判所

同

浦和　熊谷始審裁判所管轄ノ地方

千葉重罪裁判所

管轄

千葉　木更津始審裁判所管轄ノ地方

栃木重罪裁判所

同　栃木　宇都宮始審裁判所管轄ノ地方

群馬重罪裁判所

同　前橋始審裁判所管轄ノ地方

茨城重罪裁判所

同　水戸　土浦始審裁判所管轄ノ地方

山梨重罪裁判所

同

甲府始審裁判所管轄ノ地方

靜岡重罪裁判所

同　靜岡　濱松始審裁判所管轄ノ地方

長野重罪裁判所

同　松本　長野　上田始審裁判所管轄ノ地方

大坂重罪裁判所

同　大坂　堺　奈良始審裁判所管轄ノ地方

京都重罪裁判所

同　京都　園部　宮津始審裁判所管轄ノ地方

兵庫重罪裁判所
管轄
神戸　姫路始審裁判所管轄ノ地方
和歌山重罪裁判所
同
和歌山始審裁判所管轄ノ地方
滋賀重罪裁判所
同
大津　彦根始審裁判所管轄ノ地方
徳島重罪裁判所
同
徳島始審裁判所管轄ノ地方
岡山重罪裁判所

同
岡山　津山始審裁判所管轄ノ地方
福井重罪裁判所
同
福井始審裁判所管轄ノ地方
石川重罪裁判所
同
金澤　富山　七尾始審裁判所管轄ノ地方
高知重罪裁判所
同
高知　中村始審裁判所管轄ノ地方
愛媛重罪裁判所
同

松山　高松　宇和島始審裁判所管轄ノ地方

長崎重罪裁判所

管轄

長崎　佐賀始審裁判所管轄ノ地方

福岡重罪裁判所

同

福岡始審裁判所管轄ノ地方

熊本重罪裁判所

同

熊本始審裁判所管轄ノ地方

大分重罪裁判所

同

大分　中津始審裁判所管轄ノ地方

十五年二十九號布告ヲ以テ第一條ノ下ニ札幌根室ノ四字ヲ加ヘ次行ヲ刪ル

鹿兒島重罪裁判所

同

鹿兒島　宮崎始審裁判所管轄ノ地方

沖繩縣管轄ノ地方

函館重罪裁判所

同

函館始審裁判所管轄ノ地方

開拓使札幌根室本支廳管轄ノ地方

青森重罪裁判所

同

弘前始審裁判所管轄ノ地方

愛知重罪裁判所

同

名古屋　岡崎始審裁判所管轄ノ地方
岐阜重罪裁判所
管轄
岐阜始審裁判所管轄ノ地方
三重重罪裁判所
同
安濃津　山田始審裁判所管轄ノ地方
宮城重罪裁判所
同
仙臺始審裁判所管轄ノ地方
福島重罪裁判所
同
福島　若松　平　白川始審裁判所管轄ノ地方

盤手重罪裁判所
同
盛岡　盤井始審裁判所管轄ノ地方
山形重罪裁判所
同
山形　米澤　酒田始審裁判所管轄ノ地方
秋田重罪裁判所
同
秋田始審裁判所管轄ノ地方
廣島重罪裁判所
同
廣島　尾道始審裁判所管轄ノ地方
山口重罪裁判所

管轄

山口始審裁判所管轄ノ地方

島根重罪裁判所

同

松江　濱田始審裁判所管轄ノ地方

鳥取重罪裁判所

同

鳥取　米子始審裁判所管轄ノ地方

○明治十五年六月二十日第二十九號布告

明治十四年十二月第七十八號布告重罪裁判所管轄區畫中左ノ通改正ス

函館重罪裁判所管轄內

函館ノ下ニ札幌根室ノ四字ヲ加ヘ開拓使札幌根室本支廳管轄ノ地方トアル一行

ヲ刪ル

右奉　勅旨布告候事

○新舊法比照方

○明治十四年十二月二十八日第八十一號布告

刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照スルニハ左ノ例ニ從フヘシ

第一條　新舊法比照左ノ如シ

新法	舊法
一　死刑	斬絞
二　無期徒刑	懲役終身
三　有期徒刑	同
四　無期流刑	禁獄終身

五　有期流刑

六　重懲役　懲役十年

七　輕懲役　懲役七年

八　重禁獄　禁獄十年

九　輕禁獄　禁獄七年

十　重禁錮　懲役十一日以上五年以下

十一　輕禁錮　禁獄鎖錮十一日以上五年以下

十二　罰金　贖罪收贖罰金科料二圓以上

十三　拘留　懲役禁獄鎖錮拘留十日以下

十四　科料　贖罪收贖罰金科料二圓未滿

第二條　舊法ノ刑期新法主刑ノ刑期内ニ在ル時ハ新法ニ從フ但舊法ノ刑期ニ過クルヿヲ得ス　舊法ニ於テ懲役百日ニ該ル者新法ニ照シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ新法ニ從ヒ二月以上百日以下ノ重禁錮ニ處スルノ類

若シ舊法ノ刑期新法死刑ノ短期ニ等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時

ハ舊法ニ從フ　舊法ニ於テ禁獄三十日ニ該ル者新法ニ照ラシ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ舊法ニ從ヒ禁獄三十日ニ處スルノ類

第三條　舊法新法ノ刑共ニ短期長期アル者ハ其短期ノ短キ者ニ從フ但其長期ノ短キ者ニ過ルヿヲ得ス　舊法ニ於テ一年以上三年以下ノ懲役ニ該ル者新法ニ照ラシ三月以上四年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ新法ニ從ヒ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處スルノ類

若シ舊法新法ノ刑其短期等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ　舊法ニ於テ二月以上三年以下ノ禁獄ニ該ル者新法ニ照ラシ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ舊法ニ從ヒ二月以上二年以下ノ禁獄ニ處スルノ類

第四條　舊法ノ贖罪收贖若クハ罰金科料ノ金額新法主刑ノ金額内ニ在ル時ハ新法ニ從フ但舊法ノ金額ニ過クルヿヲ得ス

第五條　舊法新法ノ罰金科料共ニ多數寡數アル者ハ其寡數ノ寡キ者ニ從フ但其多數ノ寡キ者ニ過クルヿヲ得ス

第六條　舊法ニ於テ單ニ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金ヲ附加ス可キ時ハ其罰金ヲ附加セス

第七條　舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金科料ニ該ル時ハ新法ニ從フ

舊法ニ於テ贖罪收贖若クハ罰金科料ニ該ル者新法ニ照シ體刑ニ該ル時ハ舊法ニ從フ

第八條　舊法ニ從ヒ贖罪收贖ニ處シタル者其金額ヲ延期限內ニ納完スル能ハサル時ハ一圓ヲ一日ニ折算シ輕禁錮又ハ拘留ニ換フ但一圓未滿ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

第九條　舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ重罪ノ刑ニ處スル時ハ新法ノ附加刑ヲ適用セス但除族追奪位記沒收ノ類ハ舊法ニ從フ

第十條　舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ禁錮ノ刑ニ處スル時ハ監視ヲ附加セス

第十一條　華士族ノ犯罪新法ニ於テ輕罪ニ該ル者舊法ニ從ヒ處斷スル時ハ其族ヲ除セス

第十二條　新法ト舊法トヲ比照スルニハ各其本法ニ照シ加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

第十三條　舊法ニ於テ棒鎖ニ該ル者ハ仍ホ棒鎖ニ處ス

右奉　勅旨布告候事

○始審裁判所民事裁判權限

○明治十四年十二月廿八日第八十三號布告

治安裁判所及ヒ始審裁判所ノ權限左ノ通制定ス

右奉　勅旨布告候事

第一條　治安裁判所ハ訴訟事件ヲ勸解ス但諸官廳ニ對スル事件及ヒ商事ニ係リ急速ヲ要スル事件ハ勸解スルノ限ニ在ラス

第二條　治安裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓未滿ノ訴訟ニ付始審ノ裁判ヲ爲ス

第三條　治安裁判所ハ人事其他金額ニ見積ル可カラサルモノヲ裁判スルヿヲ得

ス

第四條　始審裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓以上並ニ第三條ニ掲ケタル治安裁判所權外ノ訴訟ニ付始審ノ裁判ヲ爲ス

第五條　始審裁判所ハ其管轄地內ノ治安裁判所ノ始審裁判ニ對スル控訴ニ付終審ノ裁判ヲ爲ス

但控訴ノ手續ハ明治十年第十九號布告控訴手續ニ照準スヘシ

シ

○比ノ部

○比丘尼ノ蓄髮肉食等ヲ許ス

○明治六年一月廿二日第二十六號布告

壬申第百三十三號布告僧侶肉食妻帶蓄髮等可爲勝手旨被仰出候ニ付テハ自今比丘尼ノ儀モ蓄髮肉食緣付歸俗等可爲勝手事

但歸俗ノ輩ハ入籍致シ候上戸長ヘ可屆出事

○備荒儲蓄法

○明治十三年六月十五日第三拾壹號布告

備荒儲蓄法別紙ノ通相定來ル十三年度（明治十四年一月一日）ヨリ施行候條明治八年七月第百廿二號達窮民一時救助規則及同十年九月第六拾二號布告凶歲租稅延納規則ハ右施行ノ

期日ヨリ廢止トス此旨布告候事

別紙

備荒儲蓄法

第一條

備荒儲蓄金ハ非常ノ凶荒不慮ノ災害ニ罹リタル窮民ニ食料小屋掛料農具料種穀料ヲ給シ又罹災ノ爲メ地租（國稅ノ部分ニ限ル）ヲ納ムル能ハサル者ノ租額ヲ補助シ或ハ貸與スルモノトス

第二條

各府縣ハ土地ヲ有スル人民ヨリ地租ノ幾分ニ當ル金額ヲ公儲セシメ以テ儲蓄金ヲ設ク可シ各人ヨリ公儲スルノ割合ハ府縣會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ其總額ハ政府ヨリ配付スル金額ヨリ少カラサルヲ要ス

但市街ハ府縣會ノ議決ヲ以テ政府ノ許可ヲ得郡村ト其徵收法ヲ異ニスルヲ得

第三條

政府ハ毎歲百貳拾萬圓ヲ支出シテ儲蓄金ヲ補助スヘシ

第四條

政府ヨリ補助スル金額ノ內三拾萬圓ハ中央儲金蓄トシテ大藏卿之ヲ管掌シ九拾萬圓ハ各府縣ノ地租額ニ應シテ之ヲ配付スヘシ

第五條

府縣儲蓄金ヲ徵收シ管守シ支給シ及ヒ之ヲ一處ニ集儲シ數所ニ分儲シ或ハ米穀ヲ購入スルノ方法ハ府知事縣令ヨリ之ヲ府縣會ニ付シ其議決ヲ取リ內務大藏兩卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ之ヲ施行スヘシ但シ米穀ヲ儲積スルハ儲蓄金ノ半額ヲ超ユヘカラス他ノ半額ハ公債証書ニ交換シ置クヘキ者トス

第六條

府縣會ニ於テ議決スル儲蓄金支給ノ方法ハ左ノ制限ヲ超ユヘカラス

第一　食料ヲ給スルハ罹災ノ爲メ自ラ生存スル能ハサル者ニ限ル其日數ハ三十日以內トス又同上ノ窮民ニ小屋掛料ヲ給スルハ一戶拾圓以內農具料種穀

料ヲ給スルハ一戸貳拾圓以内トス

第二　地租ヲ補助及ヒ貸與スルハ罹災ノ爲メ土地家屋ヲ賣却スルニアラサレハ地租ヲ納ムル能ハザル者ニ限ル

第七條

各府縣窮民ノ救助地租ノ補助及ヒ貸與ノ金額府縣ノ儲蓄金三分貳以上ヲ供用支出スルトキハ府知事縣令ノ具申ニ依リ内務大藏兩卿ノ協議ヲ以テ中央儲蓄金ヨリ補助スベシ

第八條

從前人民公儲ノ儲蓄金アル府縣郡區町村ハ之ヲ以テ今般施行スル所ノ備荒儲蓄金ニ補充スルコトヲ得

第九條

各府縣内儲蓄金ノ出納ハ大藏卿歲次或ハ臨時ニ之ヲ檢査スヘシ

第十條

府知事縣令ハ毎年七月中ニ其府縣儲蓄金ノ出納ヲ内務大藏兩卿ニ報告シ兩卿ハ毎年中央及ヒ府縣儲蓄金ノ出納ヲ全國ニ公布スヘシ

第十一條

此方法ハ貳拾ヶ年間施行スルモノトス滿期ノ後ニ至リ各府縣ニ存在スル儲蓄金ハ府縣會ノ議決ヲ以テ其保存方法ヲ定ムヘシ

○明治十三年十一月十二日第五拾號布告

本年六月第三拾壹號布告ヲ以テ定メタル備荒儲蓄金ヲ怠納スル者ハ十年十一月第七拾九號布告ニ據リ處分スヘシ但該儲蓄金ヨリ給與補助若クハ貸與ヲ受クルモノハ免除スベシ此旨布告候事

○明治十五年十二月二十八日第七拾四號布告

備荒儲蓄金及區町村會若クハ水利土功ノ集會ニ於テ評決シタル土木費ニ關シ

不服アリテ出訴セントスルモノハ都テ明治十五年五月第貳拾貳號布告ニ依ルヘシ

右奉　勅旨布告候事

郵船規則ハ廢スルニ付除ク

○世ノ部

○西洋形商船規則

○明治三年正月廿七日布告

郵船商船規則別冊之通御定ニ相成候條此段相達候事

商船規則

西洋形商船買入ノ儀ニ付先般相觸置候趣モ有之軍艦ヲ除ノ外在來日本製造ノ船ハ勿論西洋形商船ニ至迄總テ民部省中通商司ノ管轄ニ被仰付候條得其意右西洋形商船所持ノモノ或ハ新規買求候モノハ民部省外務省連印ノ免許狀可申請尤別紙規則書一通開港場運上所ヨリ相渡令所持候條其旨可相心得候一體日本製造ノ船ハ度々難破ノ患モ有之人命荷物等ノ損傷不少詰リ皇國ノ御損失ト相成候ニ付迫テハ不殘西洋形ノ大船ニ仕替度御旨趣ニ付當今西洋形ノ船所持ノ者ハ厚御引立被遣候條其旨可相心得候乍去密商拔荷等不心得ノ儀相働候者ハ嚴重取締不致候テハ不相濟ニ

付別紙ノ通御規則御取極相成候儀ニ付津々浦々於テ此旨屹度可相守候事

右之通御沙汰候事

午正月　　太政官

十二年十九號布告ヲ以テ免狀ヲ改正ス

免狀案

第何號記

商船　壹艘

船形　長何間　巾何間　檣何本

スクーナル形カ

バルクカ

鐵製カ

木製カ

蒸氣船之分者

暗車蒸氣カ

外輪蒸氣カ

蒸氣　馬力

風帆船　共　噸數

船ノ賣主

何國商人姓名

船ノ原名何々

船ノ改名何々

船ノ價何々

船ノ所持主

何國

何所

何　某

右之モノ儀今般書面ノ船買入ノ儀願依リ聞屆令所持候條別紙規則ノ趣堅可相守モ

ノ也

年號月日　　民部省印
　　外務省印

此船廢朽難用立節ニ至リ解撤致候ハヽ免狀返納可致事

規則

西洋形商船買入度者ハ其旨開港場運上所ヘ可願出其上船ノ善惡新古撿閲ノ上免許差遣可申事

一御國旗之事

右ハ決テ取外シ候事不相成附屬ノ艀舟ニ至迄必可揚置事

一每朝西洋時規第八字ニ引揚ケ夕方ハ日沒迄ヲ限引卸スヘキ事

但右御國旗引揚無之節ハ海賊船ノ取扱請候テモ申譯ナキ事萬國普通ノ公法タル事

一御國旗ノ寸法別紙ノ通ニ候事

五年三百三十七號布告ヲ以テ時刻ハ何時ト稱ヘシム

但大旗ハ祝日ニ引揚平日ハ小旗引揚ケ風雨晦暝ノ節ハ小旗迄引卸置不苦候事

祝日

正月朔日　　正月十五日　　三月三日
正月五日　　七月七日　　七月十五日
八月朔日　　九月九日　　九月廿二日

右之通

一御軍艦ヘ出合候節ハ我旗章ヲ三度昇降致禮義ヲナスヘキ事

一夜間ハ旗章ト引替ニ燈明可引揚燈明ハ青赤白ノ三坐ヲ設ケ航海中赤ハ左舷青ハ右舷ニ點火シ白ハ前檣頂遠方ヨリ見留易キ所ニ揚置燈明消ヘサル樣可致事

一船ノ込合タル節並風雨浪高ノ折ハ別テ心ヲ用ヒ互ニ突當ラサル樣可致右ハ日本船タリ共同樣ナレトモ外國船ハ別テ此規則嚴重ナレハ精密ニ用心スベシ

一貿易港碇泊中荷物陸揚船積共運上所ヘ願立免許狀ヲ受出入可致事

但手數銀差出ニ不及候事

六年一號布告ヲ以テ五節ヲ廢シ祝日ヲ定ム

五年三百三十七號布告ヲ以テ時刻ヲ裏夜平分二十四時ト改ム

八年四十號布告ヲ以テ第拾項ヲ廢止ス

一貿易港於テ荷物ノ取引致シ候ハヽ其旨通商司ヘ可相屆事

一航海中ハ兼テ帳面用意致置開港場ハ不及申諸湊ヘ入津ノ節ハ十二時（西洋ノ二ノ十四時）間ニ其所ノ運上所又ハ湊役所ヘ屆出檢印可請出帆ノ節同斷ノ事

右檢印ノ式如左

何船
何月何日入港
何港
運上所
又ハ
何港
役所

右出入檢印請候節手數銀相納ルニ不及事

何船何港
向何月何日
出帆
何港
運上所
又ハ
何港
役所

一在來日本製商船ハ廻漕會所ヘ船名並積石數船主船頭名前乘組水夫人數等可屆出書付左ノ通

何國何郡何村
印
何丸船頭誰（雖船）
水夫何人乘
何石積

右屆出候上鑑札可相渡事

一西洋形商船並在來日本商船トモ積荷ノ總數品物ノ名並其送リ先ヲ認通商司並運上所ヘ可差出尤其港ヨリ陸揚又ハ船積スヘキ品物ハ一々相屆可申事

一諸港ヘ著船ノ節湊役人船改ノタメ出張致引續キ爲取締乘組居候事

但船中於テ聊ノ品タリ共仕向ケ間敷儀一切不相成事

一船中乘組ノ者病死致候節ハ水葬不相成陸地ヘ相當ノ葬禮可取行事

一大砲小銃玉藥類ハ積込陸揚トモ其港運上所或ハ役所ノ免許ヲ乞フヘキ事

一海賊防禦其外ノ用意ノタメ相當ノ銃器備置候儀ハ苦シカラス尤兼而挺數等ノ免許狀民部省ヨリ請取居ヘキ事

一滯船入費ハ一噸ニ付一日金二朱ト被定置候間商賣向ハ勿論假令官府ノ御用タリ共船ノ進退自由ヲ得ス雜費相懸リ候節ハ其償右ノ噸數ヨリ割出シ取立候テ不苦候事

但諸港於テ威權ケ間敷振舞及ヒ無故出帆差留候節ハ右ノ償可申立事

十四年七十二號布告詞例處分方參照スヘシ

一免許ナク外國ヘ通船ノ儀不相成候萬一相犯スニ於テハ船並荷物共取上屹度御咎可有之事

一免許ヲ受候上外國人ヲ雇ヒ船中使役ノ儀不苦事

但不開港ノ地ニテ無據上陸爲致候節ハ護衛ノ者急度附添其所ノ役所ヘ相屆官許ノ證據差出可申事

一困難ト見請候船ハ內外國人ノ差別ナク救助致シ可遣事

但外國人ハ開港場ノ役所ヘ可引渡尤右ニ付入費等有之節ハ開港場運上所ヨリ相當御下ケ金有之ヘキ事

一外國人ヘ貸遣候節ハ約定書ヲ以テ通商司ヘ屆出候得ハ直ニ運上所ヘ掛合ノ上其國ヤ旗章引揚候儀御差許可相成候事

一外國人ト申合近海於テ密商致シ候儀ハ勿論右ノ外御規則ニ相背候儀取計候節ハ其船取揚屹度御咎可有之事

十四年七十二號布告詞例處分方參照スヘシ

八年百八十一號布告ヲ以テ第廿二項商船記號ヲ廢止シ揭揚ニ及ハストス

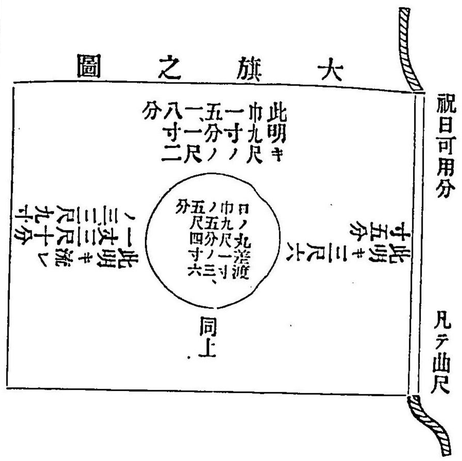
一商船ノ記號ハ別紙圖面ノ通製造致シ御國旗同樣可取扱事

一西洋形商船蒸氣ハ百噸ニ付一箇年金十五兩風帆ハ百噸ニ付一箇年金十兩宛稅金通商司ヘ可相納候事

但在來日本製商船之分ハ積石數百石ニ付金一兩宛可相納事

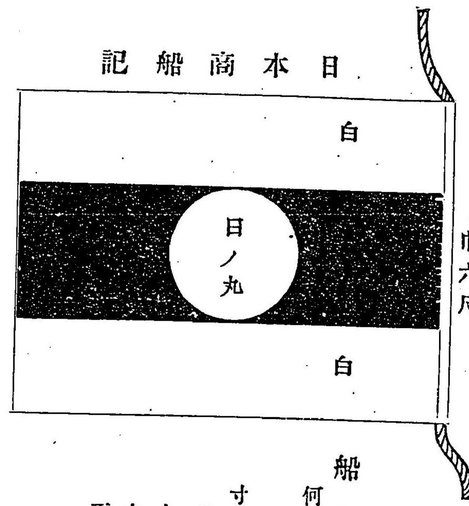
右之通相定候條嚴重ニ可相守事

大旗之圖



平常可用分
中旗寸法
流一丈
竪七尺
日ノ丸差渡四尺二寸
同先ノ明キ三尺
同乳ノ方明キ二尺八寸
風雨ノ節可用分
小旗寸法
流六尺
竪四尺二寸
日ノ丸差渡二尺五寸二分
同先ノ明キ一尺八寸
同乳ノ方明キ一尺六寸八分

八百八十一號布告ヲ以テ掲揚ニ不及トス



船名
何國何村何某所持
寸法
日ノ丸徑尺四尺
上白二尺
中黑二尺
下白二尺

○明治八年三月八日第四十號布告

今般回漕規則施行候ニ付テハ明治三年正月布告候商船規則中第拾項廢止候條此旨布告候事

○明治八年十一月二十九日第百八十一號布告

明治三年三月布告商船規則中第二十二項商船記號廢止候條自今掲揚ニ不及此旨布告候事

○明治十二年二月十日第五號布告

自今西洋形商船ハ總テ沿海管廳ノ所轄ニ被附候條來ル七月三十一日迄ニ本船ノ定繫港ヲ定メ其地ノ船籍ニ編入致スヘシ

但定繫港ハ船主又ハ本船ノ公務ヲ代理スル者所在ノ地ニ於テ定ムヘシ

布布告候事

○明治十二年五月十五日第十九號布告

明治七年八月第八十八號布告航海公證規則ヲ廢シ明治三年正月二十七日布告中

十四年十二號布告ヲ以テ免狀ヲ受有スルニ及ハサル船ヲ示ス

十四年四十三號布告ヲ以テ免狀中內務省トアルヲ農商務省ト改ム

西洋形船免狀別紙ノ通改正候條此旨布告候事

別紙

明治十二年第拾九號布告屬

西洋形商船
登簿船免狀

船體ノ材料	艤裝ノ具備	樯ノ數	甲板ノ層數	船ノ種類	船本體管轄廳名	港定繫	船名	信號符字	船本番號

船ノ年ヶ稅	船主若クハ會社ノ名	船本ノ名原	船造工長ノ氏名	月年造製	地造製名	船尾ノ狀形	船骨ノ材料

尺度

最噸甲板上最大ノ長サ
內法ノ最大ノ幅
艙室ニ於テ最噸甲板ヨリ船底中央ノ內板ニ至ル深サ

噸數

最噸甲板下部ノ噸數
最噸甲板上部ノ噸數若シアレハ即チ
甲板間ノ場所
船尾室
囲室
其他ノ場所若シアレハ

總計

除去スヘキ噸數

機關室ノ噸數
乘組人常用室ノ噸數

總計

登簿噸數

機關ノ數
公稱馬力

右ニ記載スル要件ヲ查明シ噸數測度規則
度噸數ヲ測定シ此登簿船免狀ヲ下付スル

明治　年　月　日

大日本帝國

西洋形商船
登簿船免狀

本船番號	信號符字	船名	港籍定	本船管轄廳名	船ノ種類	甲板ノ層數	橋ノ數	船具ノ裝置	船體ノ材料

船骨ノ材料	船尾ノ形狀	製造地名	製造年月	造船工長ノ氏名	船ノ原名	船主若クハ會社ノ名	一ヶ年ノ船稅

尺度

量噸甲板上最大ノ長サ
內法リ最大ノ幅
艙室ニ於テ量噸甲板ヨリ船底中央ノ內板ニ至ル深サ

噸數

量噸甲板下部ノ噸數
量噸甲板上諸部ノ噸數若シアレハ即チ
甲板間ノ場所
船尾室
囲室
其他ノ場所若シアレハ)
總計
除去スヘキ噸數
運關室ノ噸數
乘組人常用室ノ噸數
總計

登簿噸數

機關ノ數
公稱馬力

右ノ記載スル要件ヲ査明シ噸數測度規則ニ遵ヒ其尺度噸數ヲ測定シ此登簿船免狀ヲ下付スル者也

明治　年　月　日

大日本帝國內務省

○明治三年十月三日布告

海軍御旗章國旗章並諸旗章別冊之通ニ候條各省府藩縣ニ於テ紛敷印相用申間敷地方管內外國形運送船ニハ後桅縱帆桁ノ端ニ國旗ヲ揭ケ中桅ニ其省府藩縣ノ符號旗ヲ揭クヘキ事（別冊ハ四年十一月廿九日布告ヲ以テ更定シ六年四百十六號布告ヲ以テ再ヒ更正增補ス故ニ略ス（加ノ部）ニアリ）

○明治八年五月三十一日第九十八號布告

海軍官船ヲ除クノ外西洋形船ヘ賊難防禦ノ爲大小砲設備ノ儀差許候條左ノ通可相心得此旨布告候事

第一條　海軍官船ヲ除クノ外諸省使府縣所轄ノ西洋形官船並ニ人民所持ノ西洋形商船ヘ大砲口徑四寸以內二門小銃三拾挺設備スル事苦シカラス

但船ノ噸數ニ因リ本文ニ揭クル銃砲ノ數ヲ減スルカ又ハ銃砲ノ種類ヲ取捨スルハ其便宜ニ任スト雖モ若シ增置セントスル片ハ更ニ願出許可ヲ受

クヘシ

第二條　大砲一門ニ彈藥五拾發小銃一挺ニ同百發ヲ越ユベカラス

第三條　船内ヘ銃砲ヲ設備スル時省使ハ正院ヘ上請シ府縣ハ内務省ヘ申出許可ヲ受クヘシ

但人民所持船ノ分ハ其管轄廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ而シテ該廳ニ於テハ免許狀ヲ與ヘ其旨内務省ヘ屆出ヘシ

第四條　銃砲ノ設備ヲ許可セシトキハ其旨海軍省ヘ通知スル事トス尤省使ノ分ハ正院ヨリシ府縣並ニ人民ノ分ハ内務省ヨリ通知スヘシ

第五條　諸省使府縣並ニ人民ニ於テ外國ヨリ買入レノ船内ニ附屬セシ分モ前條ノ手續ニ依ルヘシ

但銃砲彈藥等買入ルヽ節ハ明治五年正月第廿八號布告銃砲取締規則ニ從フヘシ

十四年四十三號布告ヲ以テ内務省トアルヲ農商務省トス

○明治十年二月廿七日第二十四號布告

明治八年九月第百四十四號ヲ以テ御國内西洋形船舶普通信號等ノ儀及布告置候處今般右事務内務省ヘ令管理候條右關係ノ儀ハ總テ同省ヘ可申出此旨布告候事

○明治十四年二月十七日第十二號布告

明治十二年五月第十九號布告西洋形商船免狀ハ自今蒸瀨船ハ拾噸風帆船ハ貳拾噸以下及ヒ湖川港灣ヲ限リ運轉スルモノハ其船免狀ヲ受有スルニ及ハス此旨布告候事

○明治十四年九月十三日第四十三號布告

明治九年六月第八十二號同十年一月第十一號同年二月第二十四號同十一年五月第八號同年十二月第三十七號同十二年二月第九號同年五月第十九號布告中内務省又ハ大藏

省トアルハ農商務省ト改正内務卿又ハ大藏卿トアルハ農商務卿ト改正候條此旨布告候事

五年百五號布告ヲ以テ本則ヲ當分廢止ス

○專賣畧規則

○明治四年四月七日布告

何品ニ寄ラス新發明致シ候者ハ爾來專賣御差許相成候間府藩縣管下ニ於テ願人有之節ハ別紙規則ニ照準シ當分ノ内民部省ヘ可伺出事

別紙

專賣畧規則

一是迄御國内ニ未タ開ケサル舍密諸機關器械諸器物武器織物類其外都テ新發明及有來リノ器物トイヘトモ別ニ工夫ヲ爲シ一層世用ノ便利ヲ爲スモノハ年限ヲ以官許ヲ與フヘシ

一年限ノ儀ハ發明ノ次第ニ寄リ第一等ヲ十五年第二等ヲ十年第三等ヲ七年トス

一官許願出度モノハ明細書繪圖面等相添其管轄地方官ヘ願出ヘシ地方官之ヲ民部省ヘ差出シ免許狀ヲ受クヘシ

一發明ノ品柄及工夫ノ手續等竪圖横圖平圖等ニ形ヲ圖寫シ機關ノ箇所ハイロハ或ハ一二三ノ番號ヲ加ヘ明細書ト照合一覽了然タラシムヘシ尤發明ノ本人幷證據人共調印ノ上差出スヘシ

但繪圖面ニ寫取難キモノハ雛形ニ仕立差出スヘシ

一民部省ヨリ免許狀相渡候ハヽ其地方官ニ於テ發明ノ本人幷證人ヘ請證文爲差出候上相渡スヘシ

一稅銀ノ儀ハ年限中一ケ年金五兩ツヽ管轄地方官ヘ前納スヘシ

但發明ノ品柄ニ寄リ稅銀增減アルヘシ尤管轄地方官ヨリ其節々民部省ヘ差送ルヘシ

一專賣免許狀相渡候トモ賣試ノ爲六ケ月ノ間ハ稅銀差出ニ不及七ケ月目ニ至リ賣

レ方見留相付候ハヽ其節一ケ年ノ稅銀ヲ地方官ヘ相納ムヘシ

一六ケ月賣試ノ內賣方アシク御免願出候儀ハ勝手タルヘシ若シ七ケ月後御免願出候者ハ其年前納一ケ年ノ稅銀ヲ差戻サス

一民部省ヘ差出候願書ハ都テ著到ノ順序ヲ以テ前後ヲ分ツヘシ

一他人ノ發明セシ品ヘ更ニ工夫ヲ加ヘタル分ハ某發明ノ品ヘ何々ノ廉改正ト委詳書記スヘシ若シ他人ノ發明セシ品ニ似寄リタルモ其實品物ノ工用或ハ工夫等全ク相違致シ候ハヽ異同ノ辨ヲ具サニ書分差出スヘシ

一世用有益ノ品ニテ某ノ發明ニ相違ナク現ニ其本人存在ト雖モ既ニ世間ニ年久シク流布スル分ハ官許ヲ與フヘカラス

一數人心ヲ合セ發明シタル品ハ官許狀ヲ與フルニ各通ニ相渡サス社中連名ニ認メ下ケ渡スヘシ

一免許濟ノ株ヲ相當ノ代金ヲ以テ年限中他人ニ賣渡シ候儀勝手タルヘシ尤其段ハ雙方ヨリ免許狀ヘ書添願出ヘシ

一官許相成候者ハ年限中我名前ニテ所々ヘ出店ヲ設ケ或ハ他人ヘ發明ノ品ヲ傳授スルヿ苦シカラス

一發明ノモノ官許年限中死亡致シ候節ハ身寄リノモノヘ讓リ渡シ苦シカラス尤免許狀ヘ書添ヲ願出ヘシ

一何管轄所何國何郡何町村誰何品新發明ニ付專賣免許相成候趣其節々民部省ヨリ遍ク布告スヘシ

一官許年限中損失償ヒ兼候節ハ世間必用闕クヘカラサルノ品柄篤ト取調ノ上延期聞屆クヘシ

一官許ノ文字及發明人ノ名前一々相記シ賣出スヘシ

一發明人ノ名前ヲ僞リ或ハ官許ナキ物品ヲ官許ト僞リ候モノハ過料申付ヘシ

○明治五年三月廿九日第百五號布告

新發明品專賣免許ノ儀昨未四月及布告置候處御詮議ノ次第有之當分被廢止候

尚御取調ノ上追テ被　仰出候品モ可有之事

但向後諸物品新發明致シ候者有之候ハヽ其管轄地方官ニテ發明品及其工夫ノ手續等詳細取調書ヲ以テ工部省ヘ可屆出事

○西洋形日本船各開港場出入規則

○明治八年十一月八日第百六十三號布告

明治七年十一月　第百二十三號布告國内回漕規則來ル十二月一日ヨリ當分停止シ西洋形日本船各開港場出入規則別紙ノ通相定右同月同日ヨリ施行候條此旨布告候事

西洋形日本船各開港場出入規則

第一條　凡ソ西洋形日本船ハ蒸氣風帆ノ別ナク横濱神戸大坂長崎箱館新潟ノ六港ニ入津スルトキハ其投錨時刻ヨリ十二時間ニ第一號書式ノ通其港稅關ヘ屆出ヘキ事

九年二十九號布告ヲ以テ本條ヲ改正ス

但風潮ノ不順等ニ因リ一時無餘儀入港シ十二時間ニ出港スルモノハ屆書ヲ出スニ及ハス

第二條　貨物ノ積卸ハ其港稅關ノ免許ヲ受タル後ニ非サレハ一切相成ラサル事

第三條　輸入稅未納ノ外國貨物及ヒ貨主外國人ニテ輸出稅未納ノ内國貨物回漕ノ儀ハ本年第二十號布告ニ照シ夫々手數致スヘキ事

第四條　出港セントスルトキハ必ス二時前マテニ第二號書式ノ通稅關ニ屆出ヘキ事

第五條　出入港ノ屆ヲ等閑ニスルモノハ左ノ通科料申付ヘキ事

蒸氣船　百噸迄　金十五圓

百噸以上百頓コトニ十五圓ヲ加フ

風帆船　百噸迄　金十圓

百噸以上百噸コトニ十圓ヲ加フ

第一號

入港御屆

一船名 蒸氣 風帆
船主
噸數
乘組
船客 日本人 外國人
仕出場及月日
著港日
右御屆申上候也
明治　年　月　日

某港稅關
御中

船長或ハ會社
誰　印

第二號

出港御屆

一船名 蒸氣 風帆
船主
噸數
乘組
船客 日本人 外國人
仕向場
出港日
右御屆申上候也
明治　年　月　日

某港稅關

船長或ハ會社
誰　印

十四年七十二號布告前例處分方參照スヘシ

御中

○明治九年三月十日第二十九號布告

明治八年十一月第百六十三號布告西洋形日本船各開港場出入規則第五條左之通改正候條此旨布告候事

西洋形日本船各開港場出入規則

第五條　出入港ノ屆ヲ等閑ニスル者ハ左之通科料申付ヘキ事

蒸氣船　三百噸マテ　金五圓

三百噸以上三百噸毎ニ五圓ヲ加フ

風帆船　三百噸マテ　金三圓

三百噸以上三百噸毎ニ三圓ヲ加フ

○船舶賣買並書入質手續

○明治十年三月八日第二十八號布告

人民所有ノ船舶ヲ賣買シ又ハ金穀等借用ノ爲メ書入質トナサントスル時ハ明治八年九月第百四十八號布告諸建物書入質及賣買讓渡規則ニ準據シ賣主又ハ書入主ヨリ其船ノ圖面ト約定証書ニ本船管轄地戸長ノ公証ヲ受クヘシ若シ右ノ手續ヲ爲サヽルニ於テハ其約定証文ハ裁判上尋常金穀貸借証書ト見做スヘシ

但從前書入質ト爲シタル分ハ當明治十年六月三十日迄ニ本文ノ手續ヲ以テ更ニ約定書改正可致尤航海中或ハ不得止事故アリテ右期日マテニ書換難致者ハ其旨豫メ本船管轄地戸長役所ヘ屆置クヘシ

右布告候事

○船難報告

十三年十一月布告ヲ以テ本令中商船ノ文字ヲ削リ西洋形船ト改ム

○明治十年八月七日第五十五號布告

外國人ニ關係アル貨物ヲ積載シタル西洋形商船ニシテ船難報告又ハ船難證書ノ手數ヲ要スルトキハ其船長ヨリ我國內ニ於テハ最寄稅關又外國ニ於テハ該地在留我領事館ヘ申出ヘシ即チ授受手續別紙ノ通被定候條此旨布告候事

別紙

船難報告 英語シップス プロテスト 船難證書 英語エキステンテット シップス プロテスト

船難報告ハ暴風雨其他ノ海難ニ由リ損害ヲ生セリト思考スル作豫メ其現實ヲ報告スル迄ノモノトス故ニ危難請合社ニ向テ請合金ヲ要求スル充分ノ憑據ト爲スコ足ラス唯後日船難證書ヲ記スルニ必要ノ引證ニ供スルモノトス

船難證書ハ現ニ損害ノ多少ヲ明確シ得タル作其損害ノ原因及ヒ之ヲ生シタル月日場所等ヲ詳細記載スヘキモノニシテ其記入ノ件々具誠確實ナリト思惟スル作ハ危難請合社ニ向テ請合金ヲ要求スルニ充分ノ憑據ト爲スヘキモノトス

授受手續

第一條　各商船ノ船長ヨリ遭難ノ實況ヲ申出ルトキハ其地ノ稅關長或ハ領事其船長ノ申立ニ從ヒ第一條書式ノ書面ヲ造リ船長ニ其名ヲ手書セシメ然ル后自ラ官名姓名ヲ手書シテ之レヲ公證シ一通ハ其廳ニ收メ置他ノ一通ハ船長ニ下ケ渡スベシ

第二條　船難報告ハ著船ノ後二十四時ノ內ニ手數ヲナシ若シ此時限ニ後ルヽトキハ其公證ヲ與ヘザルベシ然レトモ船長ヨリ其遲延ノ次第ヲ辨明シテ十分滿足スヘキ理由アルトキハ其次第ヲ報告書ニ記載シテ其公證ヲ與フヘシ

第三條　船難證書ハ大署第二號書式ニ從テ記スヘク而シテ船長運轉手及ヒ他ノ一名ノ海員ヲシテ稅關長又ハ領事ノ目前ニ於テ同號甲ノ明告狀ヲ記サシメ且稅關長又ハ領事ハ同號乙ノ奧書ヲ以テ之ヲ公證スベシ

第四條　船難證書ハ一航海中ニ遭遇シタル變難及ヒ生シタル損害ノ實況ヲ報告スルモノニ付航海日誌其他公證ニ供スヘキ書類ニ因リ或ハ信任スヘキ海員ノ申立ニ從テ眞確ノ事實ヲ採蒐記載セシムヘシ

第五條　船難證書ハ必ラス二通ニ記シ其一通ハ其廳ニ收メ置キ他ノ一通ハ船長ニ下ケ渡スヘシ

第六條　稅關又ハ領事館ニ於テ收メ置キタル船難證書ヲ一覽セント欲スルカ又ハ

其寫ヲ願受ント請フモノアルトキハ其廳ノ公務時間中ハ何時ニテモ之レヲ聽スヘシ但シ寫ヲ附與スルトキハ本書ト相違セサル樣緊密ニ讀ミ合セ且第二號丙ノ書式ニ從テ奥書ヲナスヘシ

第七條　船長以下ノモノ船難證書ヲ了解シ能ハサル者或ハ全ク讀ミ得サル者アレハ其明告狀ニ連署ヲナサシムルノ以前ニ於テ丁寧ニ之レヲ讀ミ聞セ充分其意味ヲ了解セシムベシ

第八條　船難報告及ヒ船難證書トモ國字ヲ原文英字ヲ譯文トナシ必ラス原譯兩文ヲ以テ記スヘシ然レトモ場合ニヨリ原文ノミヲ記シ又ハ譯文ノミヲ記スルコアルヘシ

第九條　船難報告船難證書及ヒ船難證書ノ寫ヲ付與スルトキハ左ノ手數料ヲ收入スベシ

船難報告　一通　金壹圓

船難證書　一通　金五圓

但寫一通ヲ添フ

正本ニ添フタル者ヲ除クノ外ハ

船難證書寫　一通　金壹圓

第十條　第二號書式用紙ハ適宜タルベシト雖トモ第一號書式用紙ハ稅關又ハ領事館ノ費用ヲ以テ製造シ收入シタル手數料ハ毎半年分取束テ大藏省ヘ上納スヘシ

第一號

船難報告

明治何年(千八百七十何年)何月何日何一時何分荷ヲ積載シ何々港ヨリ開帆シテ明治何年(千八百七十何年)何月何日何時何分何々港ニ到著シタル何々港間ノ丸(番號何番)船ノ船長何々明治何年何月何日何々港何々ハ何番何ノ船ノ目前ニ自身出頭シ何々ノ事故ニヨリ目下ノ損害ヲ懸念シ其次第ヲ報告スルニ付則爰ニ之レヲ登記候也

船長何ノ誰

右拙者ノ目前ニ於テ證名候段相違無之候也

明治何年何月何日

何々港稅關長又ハ領事何ノ誰

第二號

船難證書

明治何年(千八百七十何年)何月何日何地何々號船ノ船長何ノ誰運轉手何ノ誰海員何之誰何國何々港稅關長又ハ領事何ノ誰ノ目前ニ自身出頭シ誠心眞意ヲ以左ノ事實ヲ公報ス

(以下航中ノ現況遭難ノ場所月日和等ノ多之其他詳細ノ報告ヲ記入スヘシ)

是ニ於テ右出頭人ナル何ノ誰何月何日右稅關長又ハ領事ノ公廳ニ出頭シテ其船難報告ノ登記ヲ申受ケタリ

右ニ記スル暴風雨變難等及之レニ就テ生シタル損失毀害ハ全ク前記ノ實況ニ根據スル段右出頭人之ヲ證シ且稅關長又ハ領事ニ於テモ亦之ヲ證セリ

甲

右何々號船ノ船長何ノ誰運轉手何ノ誰海員何ノ誰等前文記載ノ件々ハ眞正確實ノ事實ニ相違無之此明告狀ヲ以相證候也

船長　何ノ誰

運轉手　同

海員　同

乙

右拙者ノ目前ニ於テ證名候段相違無之候也

年　月　日

何々港　稅關長又ハ領事何ノ誰

船難證書寫ノ奥書

丙

前記證書ノ寫ハ當廳ニ收メ置キタル本書ニ就テ相認メ候ニ付本書ト照査シテ分毫ノ差異無之依テ拙者ノ記名官印ヲ以相證候也

年　月　日

何々港　稅關長又ハ領事何ノ誰印

○明治十三年三月三十一日第十號布告

明治九年六月第八十二號第九十四號同年十二月第百五十三號明治十年八月第五十五號明治十二年二月第九號同年五月第十九號布告中商船ノ文字ヲ删リ西洋形船ト改正候條此旨布告候事

○西洋形船水先免狀規則

○明治十一年十二月九日第三十七號布告

明治九年十二月第百五十四號布告西洋形船水先免狀規則別冊ノ通改正候條此旨布告候事

別冊

西洋形船水先免狀規則

十四年四十三號布告ヲ以テ本則中內務省トアルハ總テ農商務省ト改ム

第一條

明治十二年一月一日ヨリ以後下ニ記載スル海港即チ水先區ニ於テ西洋形船舶ノ水先人トナリ營業スル者及ヒ西洋形船舶ノ水先船トシテ使用スル諸船ヘハ此規則ニ從テ發行スル免狀ヲ交付スヘシ

第二條

水先ノ事業ニ關係シタル諸般ノ事務ハ內務省ノ統轄ニ屬シ同省ニ於テハ充分其筋ニ明カナル者ヲ撰ミ此規則ニ準據シテ各試驗出願人ヲ試驗スヘシ

第三條

免狀ハ左ニ記載ノ海港即チ水先區ニ於ケル水先人ニ交付シ且現況ニ從テ其他ノ地方ニ於ケル水先人ニ交付スヘシ

第一　東京灣

即チ伊豆國石廊岬ヨリ同國神子本島及ヒ大島波浮港ヲ通過シテ安房國野島岬ニ至ル一線ヲ以テ疆界線トス

第二　和泉灘

即チ紀伊國宮岬ヨリ淡路國潮崎ノ仁頃ニ至ル一線ヲ以テ其南界ヲ畫シ北ハ淡路國極北ノ部ニ於ケル東經百三十五度ノ所ニ於テ畫シタル一線ヲ以テ疆界線トス

第三　和泉灘ヨリ瀨戸內ヲ通過シテ長崎迄

第四　長崎港

即チ肥前國福田村ヨリ同國伊王島ノ極北ヲ通過シ同國沖島及ヒ香燒島ヲ經テ同國深堀ニ至ル一線ヲ以テ疆界線トス

第五　津輕海峽

即チ陸奥國尻矢崎ヨリ渡島國惠山埼ニ至ル一線ヲ以テ其東界ヲ畫シ陸奥國大間村ヨリ同國龍飛埼ニ至ル一線ヲ以テ其南界ヲ畫シ同國龍飛埼ヨリ渡島國白神埼ニ至ル一線ヲ以テ其西界トス

第四條

各海港即チ水先區內ニ供備スヘキ免許水先人ノ員數ハ其海港即チ水先區ノ現況ニ從フヘシ

第五條

水先人ノ免狀ヲ出願スル者ハ自己ノ技業及ヒ性質殊ニ平素ノ行狀ニ係リ確實ナル履歷證書ヲ豫テ其本貫又ハ寄留地ノ地方官廳ヲ經テ內務省ヘ差出シ置キ或ハ試驗開場ノ時ニ於テハ直ニ司驗官ヘ差出スヘシ

第六條

水先人タル者ハ年齡二十二歲ニ滿チ少クモ一ケ年間ハ一百噸以上ノ西洋形船ニ於テ船長若クハ一等運轉手ノ職ヲ執リシ者若クハ六ケ年間航海ニ從事シ其中一ケ年間ハ自今營業免許ヲ受ケントスル水先區內ニ於テ既ニ水先見習人トナリ航海ニ從事セルモノニ限ルヘシ但シ其水先區內ニ在ル諸港灣海峽及ヒ碇泊場ハ勿論危險ノ場所及ヒ之ヲ避ルタメノ重立タル記標或ハ方位又ハ潮ノ滿干潮流燈光浮標礁標ノ位置ニ悉皆通曉シ且大船ヲ指揮シテ之ヲ運轉スルニ充分適當セリト司驗官ヲ滿足

セシムルヿヲ要スヘシ

第七條

受驗人試驗ヲ受テ正シク須要ノ條件ニ叶ヒタルト司驗官之ヲ認ムル時ハ其旨ヲ內務省ニ報告シテ直ニ免狀ヲ交付スヘシ但シ此免狀ハ翌年一月一日以後ハ全ク其効力ヲ有セサルモノトス

第八條

免狀ノ書替ヲ請願セントスル者ハ毎年十一月一日以前其願書ヲ內務省ヘ差出スヘシ但シ之ヲ許可シ或ハ許可セサルトハ都テ內務省ノ意見ニ因ルヘシ

第九條

免狀ヲ遺失スルモノ又ハ摩損スルモノハ其事由ヲ記シタル願書ヲ內務省ヘ差出シ書替新免狀ヲ申請クヘシ

第十條

水先人ハ始メテ其免狀ヲ願受ル時金拾圓又其書替毎ニ金壹圓ノ手數料ヲ上納スヘ

シ

第十一條

水先人ノ試驗ヲナス時ハ定日ヨリ少クモ十四日前其旨ヲ和洋兩種ノ新聞紙ヲ以テ公告スヘシ此公告ニハ其免許ヲ與フヘキ人數ノ限リ及ヒ試驗ノ場所月日ヲモ記載スヘシ

第十二條

試驗出願人ノ履歷證書ヲ以テ充分滿足ノモノト爲ル時ハ其出願ノ順次ヲ以テ其姓名ヲ登簿シ登簿ノ順次ニ從テ之カ試驗ヲナスヘシ

第十三條

此規則ニ從テ水先免狀ヲ受ケタル外國人ハ其執業上ニ限リ日本帝國內何レノ海岸ト雖モ上陸シ且其出發地ヘ陸路歸ルヲ得ルノ特許ヲ與フヘシ

第十四條

第三條ニ規定セル水先區內ニ於テ無免許ノ水先人船舶ヲ嚮導スルトキ免許水先人ヨリ其船舶ノ嚮導ヲナサントヽ申入レ又ハ其爲メ信號ヲナストキハ何時ニテモ免許水先人ヘ其職ヲ讓ルヘシ其職ヲ讓ルヲ拒ミ仍ホ其船舶ヲ嚮導シ或ハ免許水先人ト詐稱シ正當ナラサル免狀ヲ用ユル者ハ五拾圓以內ノ罰金ヲ科スヘシ

第十五條

水先料ハ別表ニ記ス金高ニ超過スヘカラス但シ表中記載セサルモノハ其距離ノ遠近ニ隨テ船長ト水先人ノ間ニ相當ノ約束ヲ以テ定ムヘシ

第十六條

二人以上ノ免許水先人同時ニ於テ船舶ノ嚮導ヲ申入レ又ハ其信號ヲナストキハ最初現ニ乘船シタル者其嚮導ヲ爲シ其水先料ヲ收領シ得ヘシ

第十七條

免許水先人水路嚮導專用ノ水先船ハ第十九條第一節第二節ニ示セル式ノ如ク之ヲ製シ其免狀ヲ內務省ニ願出ツヘシ內務省ハ檢査ノ上其免狀ヲ與フヘシ但此免狀ハ水先人免狀同樣其効一ヶ年ニ限ル者トシ年々其書替ヲ願出ツヘシ

十四年七十二號布告前例處分ノ方參照スヘシ

十三年三十九號布告ヲ以テ本項ヲ改正ス

第十八條

各免許水先船ハ免許ヲ得タル區域内ニ於テ其水路嚮導用ノ爲ニハ港灣稅噸稅燈臺稅等ノ諸稅ヲ免スヘシ

第十九條

各水先船ハ左ノ徵候ヲ以テ區別スヘシ

第一　水先船ノ外部ハ總テ黑色タルヘシ

第二　船尾及ヒ大帆ノ上部ニ於テ國字及ヒ羅馬字ニテ免許水先船ノ文字並ニ其番號ヲ明瞭ニ書スヘシ

第三　免許水先船ニ免許水先人ノ乘込アル時ハ桅上或ハ船首或ハ旗竿若クハ他ノ認メ易キ場所ニ於テ日出ヨリ日沒マテ水先旗ヲ翻揚スヘシ但シ水先旗ハ明治十年一月甲第壹號海軍省布達ニ照準スヘシ

第四　免許水先人ノ乘込ミタル免許水先船ハ夜間其停留場ニ碇泊中モ亦運用中ニ於ケルモ地平ノ各所ヨリ認メ易キ桅上ニ於テ日沒ヨリ日出マテ透明ノ白燈ヲ揭ケ又十五分時毎ニ閃光ヲ發スヘシ而シテ總テ其他ノ時間ニ於テハ風帆船同樣尋常ノ舷燈ヲ揭クヘシ

第二十條

日中ニ於テ左ニ記載スル信號ヲ表示スル時ハ水先ヲ要求スルノ信號ト認ムヘシ

第一　前檣ニ於テ其船ノ船首旗（英語「ヨヤック」）又ハ國旗ヲ揭揚スル「

第二　萬國普通ノ水先信號PTノ符字ヲ揭示スル「

夜間ニ於テ左ノ信號ヲ同時若クハ別時ニ表示スルトキハ水先ヲ要求スルノ信號ト認ムヘシ

第一　十五分時毎ニ青燈ヲ揭出スル「

第二　須臾ノ間歇ヲ以テ凡ソ一分時ノ間透明ナル白燈ヲ上甲板ノ舷部ニ於テ射發スル「

第二十一條

各免許水先人ヘハ其免狀ハ勿論此規則ノ寫ヲ一通ツヽ交付スヘシ故ニ其筋ノ官吏

又ハ雇主ヨリ其書類ノ閲覧ヲ要スル時ハ直ニ之ヲ示スヘシ若シ之ヲ拒ム時ハ内務省ニ於テ其執業ヲ停止シ或ハ其免狀ヲ取上クヘシ

第二十二條

此免狀ハ他人ニ貸與シ或ハ讓與スヘカラス若シ貸與シ或ハ讓與スル時ハ内務省ニ於テ其免狀ヲ取上クヘシ

第二十三條

内務省ニ於テ免許水先人其本部ノ職務ニ堪サルカ若クハ亂醉又ハ不行跡アルカ或ハ故ナクシテ其職務ヲ執ルヿヲ嫌ヒ若クハ之ヲ怠タリタルヿアリト思惟スル時ハ同省ヨリ吏員ニ命シテ之ヲ審問セシメ其情狀ニ隨ヒ其執業ヲ停止シ或ハ其免狀ヲ取上クヘシ

第壹 東京灣ノ部

發地	著地	風帆船及ヒ瀛船水先料	標	註
海上ヨリ	横濱港迄	金二圓	水脚一「フート」ニ付	
横濱港ヨリ	海上迄	金二圓	右同斷ニ付	
海上ヨリ	品川碇泊所迄	金四圓	右同斷ニ付	
品川碇泊所ヨリ	海上迄	金四圓	右同斷ニ付	
横濱港ヨリ	品川碇泊所迄	金貳拾五圓	一航海ニ付	
品川碇泊所ヨリ	横濱港迄	金貳拾五圓	右同斷ニ付	
横濱港ヨリ	横須賀港迄	金貳拾五圓	右同斷ニ付	
横須賀港ヨリ	横濱港迄	金貳拾五圓	右同斷ニ付	
横濱港ヨリ	品川碇泊所迄	金四拾圓	右同斷ニ付	
品川碇泊所ヨリ	横須賀港迄	金四拾圓	右同斷ニ付	

第貳 紀伊海峽及和泉灘ノ部

發地	著地	風帆船及ヒ瀛船水先料	標	註
海上ヨリ	兵庫神戸或ハ大坂碇泊所迄	金二圓	水脚一「フート」ニ付	
兵庫神戸或ハ大坂碇泊所ヨリ	海上迄	金二圓	右同斷ニ付	
兵庫或ハ神戸港ヨリ	大坂碇泊所迄	金壹圓五拾錢	右同斷ニ付	
大坂碇泊所ヨリ	兵庫或ハ神戸港迄	金壹圓五拾錢	右同斷ニ付	
大坂碇泊所ヨリ	神戸ヲ經テ海上迄	金四圓	右同斷ニ付	

第三 長崎港ノ部

發地	著地	風帆船及ヒ瀛船水先料	標	註
海上ヨリ	長崎港迄	金貳圓	水脚一「フート」ニ付	
長崎港ヨリ	海上迄	金壹圓五拾錢	右同斷ニ付	

第四 津輕海峽ノ部

發地	著地	風帆船水先料	瀛船水先料	標	註
海上ヨリ	函館或ハ青森繫船場迄	金貳圓五拾錢	金貳圓	水脚一「フート」ニ付	
函館或ハ青森繫船場ヨリ	海上迄	金貳圓五拾錢	金貳圓	右同斷ニ付	

第五 沿海ノ部

發地	著地	噸數	風帆船水先料	標	註
東京灣ヨリ兵庫神戸或ハ大坂迄又兵庫神戸或ハ大坂ヨリ東京灣迄		三百噸以下三百噸迄	金八拾圓		
		三百噸以上五百五拾噸迄	金百圓		
		五百五拾噸以上七百五拾噸迄	金百貳拾圓		一航海ニ付

水先料一覽表

第壹　東京灣ノ部

發地	著地	風帆船及ヒ瀛船水先料	標註
海上ヨリ	横濱港迄	金二圓	水脚一「フート」ニ付
横濱港ヨリ	海上迄	金三圓	右同斷ニ付
海上ヨリ	品川碇泊所迄	金四圓	右同斷ニ付
品川碇泊所ヨリ	海上迄	金四圓	右同斷ニ付
横濱港ヨリ	品川碇泊所迄	金貳拾五圓	一航海ニ付
品川碇泊所ヨリ	横濱港迄	金貳拾五圓	右同斷ニ付
横濱港ヨリ	横須賀港迄	金貳拾五圓	右同斷ニ付
横須賀港ヨリ	品川碇泊所迄	金四拾圓	右同斷ニ付
品川碇泊所ヨリ	横須賀港迄	金四拾圓	右同斷ニ付

第貳　紀伊海峽及和泉灘ノ部

發地	著地	風帆船及ヒ瀛船水先料	標註
海上ヨリ	兵庫神戸或ハ大坂碇泊所迄	金三圓	水脚一「フート」ニ付
兵庫神戸或ハ大坂碇泊所ヨリ	海上迄	金三圓	右同斷ニ付
兵庫或ハ神戸港ヨリ	大坂碇泊所迄	金壹圓五拾錢	右同斷ニ付
大坂碇泊所ヨリ	兵庫或ハ神戸港迄	金壹圓五拾錢	右同斷ニ付
大坂碇泊所ヨリ	神戸ヲ經テ海上迄	金四圓	右同斷ニ付

第三　長崎港ノ部

發地	著地	風帆船及ヒ瀛船水先料	標註
海上ヨリ	長崎港迄	金貳圓	水脚一「フート」ニ付
長崎港ヨリ	海上迄	金壹圓五拾錢	右同斷ニ付

第四　津輕海峽ノ部

發地	著地	風帆船水先料	瀛船水先料	標註
海上ヨリ	函館或ハ青森繫船場迄	金貳圓五拾錢	金貳圓	水脚一「フート」ニ付
函館或ハ青森繫船場ヨリ	海上迄	金貳圓五拾錢	金貳圓	右同斷ニ付

第五　沿海ノ部

發地	著地	噸數	風帆船水先料	標註
東京灣ヨリ兵庫神戸或ハ大坂迄又兵庫神戸或ハ大坂ヨリ東京灣迄		三百噸以下三百噸迄	金八拾圓	
		三百噸以上五百五拾噸迄	金百圓	
		五百五拾噸以上七百五拾噸迄	金百貳拾圓	一航海ニ付
		七百五拾噸以上千噸迄	金百三拾五圓	
		千噸以上	金百五拾圓	
兵庫神戸或ハ大坂ヨリ下ノ關或ハ長崎迄又下ノ關或ハ長崎ヨリ兵庫神戸或ハ大坂迄		三百噸以下三百噸迄	金百貳拾圓	
		三百噸以上五百五拾噸迄	金百五拾圓	
		五百五拾噸以上七百五拾噸迄	金百八拾圓	一航海ニ付
		七百五拾噸以上千噸迄	金貳百圓	
		千噸以上	金貳百貳拾五圓	
東京灣ヨリ直航下ノ關或ハ長崎迄又下ノ關或ハ長崎ヨリ直航東京灣マテ		三百噸以下三百噸迄	金百四拾圓	
		三百噸以上五百五拾噸迄	金百七拾五圓	
		五百五拾噸以上七百五拾噸迄	金貳百拾圓	一航海ニ付
		七百五拾噸以上千噸迄	金貳百三拾五圓	
		千噸以上	金貳百六拾圓	

發地	著地	瀛船水先料	標註
東京灣ヨリ	兵庫神戸或ハ大坂迄	金六圓	水脚一「フート」ニ付
兵庫神戸或ハ大坂ヨリ	東京灣迄	金六圓	右同斷ニ付
東京灣ヨリ	直航長崎港迄	金九圓	右同斷ニ付
長崎港ヨリ	直航東京灣迄	金九圓	右同斷ニ付
東京灣ヨリ	神戸或ハ兵庫ヲ經テ長崎港迄	金拾貳圓	右同斷ニ付
長崎港ヨリ	神戸或ハ兵庫ヲ經テ東京灣迄	金拾貳圓	右同斷ニ付
兵庫神戸或ハ大坂ヨリ	下ノ關海峽ノ外部或ハ長崎港迄	金六圓	右同斷ニ付
下ノ關海峽ノ外部或ハ長崎港ヨリ	兵庫神戸或ハ大坂迄	金六圓	右同斷ニ付

第一　此表中水脚ト稱スルモノハ本船ノ最モ深キ水脚ヲ云フ

第二　水先人ノ嚮導ニ因リ繫泊スル船舶ハ瀛船帆船ニ係ラス三百噸以下ハ拾圓三百噸以上ハ水脚一「フート」ニ付壹圓ノ割ヲ以テ繫泊案内料ヲ拂ハシム

第三　此表中ニ定メタル沿海水先料ハ水先人ノ歸鄉旅費ヲ包含スルモノトス

第四　此表中ニ記載セサル沿海水先料ハ船長ト水先人ノ示談ヲ以テ取極ムヘシ

○明治十三年九月廿七日第三十九號布告

明治十一年十二月第三十七號布告西洋形船水先免狀規則第十九條第四項左ノ通改正候條此旨布告候事

水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事スル時ハ他船ニ用フル燈火ヲ掲ケス只檣頭ニ於テ周回諸方ヨリ見ユヘキ白燈一個ヲ掲ケ且十五分時ヲ超エサル間歇ヲ以テ閃光一個又ハ數個ヲ發スヘシ

水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事セサル時ハ他船ト同樣ノ燈火ヲ掲クヘシ

○明治十四年九月十三日第四十三號布告

明治九年六月第八十二號同十年一月第十一號同年二月第二十四號同十一年五月第八號同年十二月第三十七號同十二年二月第九號同年五月第十九號布告中內務省又ハ大藏

省トアルハ農商務省ト改正内務卿又ハ大藏卿トアルハ農商務卿ト改正候條此旨布告候事

○西洋形船海員雇入雇止規則

○明治十二年二月十九日第九號布告

西洋形商船海員雇入雇止規則別冊ノ通相定來ル八月十六日ヨリ施行候條此旨布告候事

十三年十號布告ヲ以テ本則中商船ノ文字ヲ改ム　十四年四十三號布告ヲ以テ本則中西洋形船ト改ム　十四年四十三號布告ヲ以テ本則中内務省トアルハ總テ農商務省ト改ム

別冊

西洋形商船海員雇入雇止規則

第一條

西洋形商船（蒸氣船ハ拾噸以上風帆船ハ貳拾噸以上）ニ於テ海員ヲ雇入又ハ雇止ヲ爲ス時ハ總テ此規則ノ條款ニ準據スヘシ

第二條

雇入ノ時ハ其地ニ於ケル浦役場ニ於テ内務省ヨリ發スル海員雇入證書用紙ヲ以テ其定約書ヲ作リ雇者被雇者記名調印ノ上浦役人ノ公認ヲ受クヘシ

但定約書ハ正副貳通ニ作リ其本書ハ本船ニ保チ置キ副書ハ浦役場ニ止メ置クヘシ

第三條

内海回漕船ニ於テハ雇入期限ヲ六ケ月以内ト定ム然レトモ外國航船ニ於テハ六ケ月以外ヲ約スルヲ得ヘシ

第四條

雇止ノ時雇者ハ其地ニ於ケル浦役場ニ於テ内務省ヨリ發スル海員雇止證書用紙ヲ以テ雇止證書ヲ作リ記名調印ノ上浦役人ノ公認ヲ受ケ之ヲ其被雇者ニ付與スヘシ

第五條

雇止ハ雇入地ニ限リ行フヘシ故ニ雇入地外ニ於テ滿期ニ至ルモ雇入地ニ歸著スル

迄ハ雇入期限内ト見做スヿヲ得ヘシ

但雇者被雇者雙方ノ協意ヲ以テスルモノハ本條ノ限リニアラス

第六條

左ノ場合ニ於テハ雇入地外ト雇入期限内トニ拘ラス雇者ヨリ雇止ヲナスヲ得ヘシ

一疾病又ハ體質痿弱ノ故ヲ以テ本務ヲ執行シ能ハサル時

一本船難破其他ノ災厄ニ罹リ進航シ能ハサル者

但以上二項ノ場合ニ於テハ雇者ノ費用ヲ以テ雇入地ヘ歸還セシムヘシ

一第十條ニ揭クル違約一ヶ月内三回以上ニ至ル者

一第十一條ヲ犯ス者

第七條

又左ノ場合ニ於テハ雇入地外ト雇入期限内トニ拘ラス被雇者ヨリ其定約ヲ解クヲ得ヘシ

一苛虐ノ取扱ヲ受ケシ時

一飲食物又ハ給金ノ全額或ハ幾分ヲ給與セラレサル時

但右ノ場合ニ於テハ雇入地ヘ歸著ノ旅費ヲ請求スルヲ得ヘシ

第八條

外國ニ於テ雇入若クハ雇止ヲ爲ス時ハ其國駐留ノ我國領事館ニ於テ内務省ヨリ發スル用紙ヲ以テ定約書若クハ雇止證書ヲ作リ記名調印ノ上領事ノ公認ヲ受クヘシ

但定約書ハ正副貳通ニ作リ其本書ハ本船ニ保チ置キ副書ハ領事館ニ止メ置クヘシ

第九條

新タニ海員トナル者及ヒ此規則施行以前雇止トナリシ者ヲ除クノ外被雇者ハ必ス最後ノ雇止證書ヲ所持スヘシ又雇者ハ最後ノ雇止證書ヲ所持セサル者ヲ雇入スヘカラス

第十條

船長ノ指圖ニ背ク者許可ヲ得スシテ上陸シ又ハ許可ノ時限ヲ過キテ歸船スル者

（第十一條ノ脫船者ニアラス）本務ヲ怠ル者喧嘩口論ヲナス者酩酊スル者私ニ銃器刀槍或ハ酒類ヲ船中ニ貯フ者ハ毎回其給金三日分ヨリ多カラサル額ヲ違約金トシテ雇主之ヲ收メ且其銃器刀槍或ハ酒類ヲ取上クルヲ得ヘシ

第十一條

船中ニ於テ徒黨ヲ謀ル者船長ヲ刼ス者脫船スル者（雇入期限內ニ逃亡スル者ヲ云フ）ハ其事情ニ因リ百日以內ノ懲役ニ處ス若シ船體船具ヲ毀傷シ又ハ載貨ヲ私用スル者ハ其實價ヲ償ハシムルノ外本條ニ依テ其罪ヲ科スヘシ

第十二條

海員ヲ虐使シ飲食物或ハ給金ノ全額又ハ幾分ヲ給與セサル者ハ其事情ニ因リ百圓以內ノ罰金ヲ科シ其給與セサル金額ハ年六分ノ利子ヲ加ヘ償還セシムヘシ

第十三條

此規則中第十條第十一條第十二條ヲ除キ其他ノ諸條欵ヲ犯ス者ハ其事情ニ因リ五拾圓以內ノ罰金ヲ科スヘシ

十四年七十二號布告罰例臨分方參照スヘシ以下皆之ニ倣ヘ

○明治十三年三月三十一日第十號布告

明治九年六月第八十二號第九十四號同年十二月第百五十三號明治十年八月第五十五號明治十二年二月第九號同年五月第十九號布告中商船ノ文字ヲ刪リ西洋形船ト改正候條此旨布告候事

○明治十四年九月十三日第四十三號布告

明治九年六月第八十二號同十年一月第十一號同年二月第二十四號同十一年五月第八號同年十二月第三十七號同十二年二月第九號同年五月第十九號布告中內務省又ハ大藏省トアルハ農商務省ト改正內務卿又ハ大藏卿トアルハ農商務卿ト改正候條此旨布告候事

十四年五十號布告ヲ以テ施行日限ヲ改ム
十五年四十四號布告ヲ以テ再ヒ施行日限ヲ改ム
十六年六號布告ヲ以テ本則ヲ改定ス
十四年五十號布告ヲ以テ本條ヲ改正ス

○石油取締規則

○明治十四年八月十三日第四十號布告

石油取締規則別冊ノ通相定メ來明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

別冊

石油取締規則

第一條　石油ヲ分テ二種トス華氏驗温器百二十度以上ノ熱度ニ至ラサレハ引火セサルモノヲ第一種トシ其百二十度ニ達セサルモ引火スルモノヲ第二種トス

第二條　點燈用ニ供スルハ第一種ノ石油ニ限リ第二種ノ石油ハ醫師化學家藥商工職家ニ於テ業用ニ供スルノ外之ヲ用フルヲ許サス

第三條　石油營業者ヲ分テ壙業者精製者問屋及ヒ小賣商ノ四類トス都テ管轄廳東京府下ハ警視廳ノ許可ヲ受クヘシ但シ二類以上兼業スルトキハ別ニ其許可ヲ受クヘシ

第四條　壙業者精製者問屋多量ノ石油ヲ貯藏スル場所及ヒ倉庫精製所ノ構造方ハ都テ管轄廳東京府下ハ警視廳ニ於テ檢査ノ上認可スルモノトス

第五條　第二種ノ石油ハ問屋ヨリ直ニ需用者ニ販賣シ小賣商ハ第一種ノ石油ニ限リ販賣スルヲ得ルモノトス但シ販賣ノ時限ハ日出ヨリ日沒迄ノ間トス

第六條　醫師化學家藥商工職家第二種ノ石油ヲ購賣スルトキハ其數量及ヒ需用ノ趣意ヲ詳記シタル證票ヲ問屋ニ交付スヘシ問屋ハ其數量年月日及ヒ買人ノ住所氏名ヲ別帳ニ記載シ其證票ヲ貯ヘ置クヘシ但シ幼年者及ヒ瞽者聾者其他不能力ノ者ニハ販賣スヘカラス

第七條　警察官吏ハ石油精製所若クハ問屋ニ就テ石油ヲ檢査スヘシ其檢査ヲ經タルモノニアラサレハ問屋又ハ小賣商ヨリ需用者ニ販賣スルヲ得ス

第八條　檢査濟ノ石油ヲ家屋内ニ貯藏スルヲ得ルハ問屋ハ第一種ノ石油五石以内第二種ノ石油五斗以内トス小賣商ハ第一種ノ石油三石以内トシ需用者ハ第一種ノ石油二石以内第二種ノ石油五升以内トス容器ハ都テ金屬製ヲ用フヘシ

第九條　石油ヲ運搬スル𪜈ハ其石油タルヿ及ヒ其種類ヲ表記スヘシ但シ其積卸ニ

必用ナル時間ノ外波戸場又ハ路傍ニ置クヘカラス

第十條　此規則ニ背ク者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

○明治十四年九月二十四日第五十號布告

本年八月第四十號布告石油取締規則施行日限ノ儀ハ來明治十五年九月一日ト改定並ニ右規則第一條左之通改正候條此旨布告候事

十五年四十四號布告ヲ以テ施行日限ヲ改ム

第一條　石油ヲ分テ二種トス華氏驗温器百十五度「英語ポーニン、テスト」ニシテ即チ引火度ノ謂ナリ以上ノ熱度ニ至ラサレハ引火セサルモノヲ第一種トシ其百十五度ニ達セサルモ引火スルモノヲ第二種トス

十六年六號布告ヲ本則ヲ改定ス

○明治十五年八月十六日第四十四號布告

明治十四年九月第五十號布告石油取締規則施行日限ノ儀更ニ明治十六年七月一日ト改定ス

右奉　勅旨布告候事

○西洋形船々長運轉手機關手免狀規則

○明治十四年十二月八日第七十五號布告

西洋形船船長運轉手機關手免狀規則別冊之通改定來十五年一月一日ヨリ施行シ九年六月第八十二號同年六月第九十四號同年十二月第百五十三號同年十二月第百五十七號十三年十二月第五十八號十四年二月第十三號同年三月第十八號布告ハ同日ヨリ都テ之ヲ廢止ス

右奉　勅旨布告候事

別冊

西洋形船船長運轉手機關手免狀規則

此規則ハ海軍諸艦ニ關セサルモノトス

此規則中內國航船ト稱スルハ支那朝鮮ノ間ニ於ケル鴨綠江ヨリ露領黑龍江ニ至ルノ沿岸及ヒ薩哦嗹諸港ニ航スルモノモ亦包含ス

第一條

船長、運轉手、機關手ノ職ヲ執ル者ハ此規則ニ遵ヒ其職ニ應スル等級ノ免狀ヲ農商務卿ヨリ受ケ之ヲ所持スヘシ

第二條

免狀ハ甲乙及ヒ小形船機關手ノ三種トナシ又甲乙ノ兩種トモ船長、一等運轉手、二等運轉手、一等機關手、二等機關手ノ五ニ分チ各々試驗規程ニ從ヒ及第セシ者ニ授與スヘシ

第三條

試驗ノ規程ハ第壹號布達ニ據ルヘシ

第四條

高等ノ免狀ハ下等ノ免狀ニ代用スルヲ得下等ノ免狀ハ高等ノ免狀ニ代用スルヲ得ス

甲種船長ノ免狀ハ乙種船長ノ免狀ニ對シ高等ノ効力ヲ有シ運轉手、機關手ノ免狀ニ於ケルモ亦同シ

乙種二等運轉手ノ免狀ハ從前ノ小形船船長ノ免狀ニ對シ高等ノ効力ヲ有シ乙種二等機關手免狀ノ小形船機關手免狀ニ於ケルモ亦同シ

第五條

從前授與シタル本免狀ハ甲種免狀ト同一ノ効力ヲ有シ又假免狀ハ當分ノ內乙種免狀ニ代用スルヲ得

從前授與シタル小形船船長ノ免狀ハ其効力ヲ存シ又從前ノ小形船機關手ノ免狀ハ當分ノ內本則ノ小形船機關手免狀ニ代用スルヲ得

第六條

免狀ノ書換又ハ再授ヲ請フトキハ手數料金壹圓ヲ納ムヘシ但シ再授ヲ請フ者ハ二名以上ノ證人ヲ要ス

第七條

免狀ハ其筋吏員ノ指圖ニ應シ何時タリトモ其檢査ヲ受クヘシ

第八條

甲種免狀試驗課程ニ合格スト認メタル外國政府ノ本免狀ヲ所持セル船長、運轉手、機關手ハ更ニ試驗ヲ要セス原免狀同等ノ免狀ヲ授與スヘシ

第九條

左ノ三項ニ記載スル各船ハ其所用ノ區別及ヒ登簿噸數、公稱馬力ノ限度ニ從ヒ應等若シクハ高等ノ免狀ヲ受有スル職員ヲ乘組マシムヘシ

第一項

三百噸未滿	外國航船	甲種免狀船長	一名以上
		同　一等運轉手	同
三百噸以上	同	甲種免狀船長	同
		同　一等運轉手	同
		同　二等運轉手	同

一百馬力未滿	同	同　一等機關手	同
一百馬力以上	同	同　一等機關手	同
		同　二等機關手	同

第二項

一百噸以上	內國航船	乙種免狀船長	同
		同　一等運轉手	同
三百噸未滿		同　船長	同
		同　一等運轉手	同
三百噸以上	同	同　二等運轉手	同
五百噸未滿			
		甲種免狀船長	同
五百噸以上	同	同　一等運轉手	同
		同　二等運轉手	同

二拾馬力以上	同	乙種免狀二等機關手	同
五拾馬力未滿			
五十馬力以上	同	若クハ甲種免狀二等機關手	同
一百馬力未滿			
一百馬力以上	同	甲種免狀一等機關手	同
		同　二等機關手	同
第三項			
二十噸（汽船ハ拾噸）以上	同	乙種免狀二等運轉手	同
一百噸未滿		若クハ從前ノ小形船船長	
二拾馬力未滿	同	小形船機關手	同
二拾馬力未滿	港內若クハ湖川用	小形船機關手	同

但シ二拾馬力以上ノモノハ第二項ニ準ヒ機關手ヲ乘組マシムヘシ

前記各項ニ從ヒ應等若クハ高等ノ免狀ヲ受有セス或ハ禁止、停止ニ係リ受有シ能ハスシテ其職ヲ執リ出航スル者及ヒ之ヲシテ其職ヲ執ラシメ又ハ其職員ヲ減シテ出航セシムル者ハ各貳圓以上貳百五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第十條

農商務卿ハ船長、運轉手、機關手ノ技術劣等ニシテ其職ヲ執ルニ不適當ナリト考察スルトキ又ハ左ニ揭クル事項ニ於テハ其筋吏員ヲシテ之ヲ審問セシメ其免狀ノ使用ヲ停止シ或ハ禁止スルコトアルヘシ

第一　亂醉、粗暴其他ノ不品行若クハ指揮ニ悖戾シ又ハ職務ニ怠ル者

第二　失錯又ハ不當ノ所爲ニ由テ船ヲ失ヒ或ハ棄テ或ハ之ニ大損害ヲ生シ又ハ人命ヲ害ヒ或ハ大傷痍ヲ被ラシメシ者

第三　輕罪以上ノ刑ニ處セラレタル者

第十一條

前條審問中檢察官又ハ被害者ヨリ裁判所ニ出訴スルトキハ農商務卿其審問ヲ中止シ裁判確定ヲ俟テ之ヲ處分スヘシ

第十二條

免狀ノ使用ヲ停止シ或ハ禁止スルトキハ農商務卿其免狀ヲ取揚クヘシ若シ之ヲ拒ムモノハ貳圓以上貳百五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

但シ第九條末項ノ罪ト俱ニ發スルトキハ罰金ヲ並ヒ科スヘシ

第十三條

免狀使用ノ停止或ハ禁止ノ處分ニ服セサルモノハ其筋ヘ上訴スルヿヲ得ヘシ

第十四條

免狀ノ使用ヲ禁止シタル者ト雖モ一ケ年ノ後ニ至リ農商務卿ノ考察ヲ以テ更ニ相當ノ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

○請願規則

○明治十五年十二月十二日第五十八號布告

請願規則左ノ通制定ス

請願規則

第一條　人民各自ノ利害ニ關シ行政上ノ處分ヲ請願セントスル者ハ左ノ條規ニ依ルヘシ

第二條　郡區長及戸長職務內ノ事件ハ郡區長戸長ニ請願スヘシ郡區長戸長ノ指令ニ服セサル者ハ府知事縣令ニ請願シ府知事縣令ノ指令ニ服セサル者ハ主務卿ニ請願シ主務卿ノ指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルコトヲ得

府知事縣令警視總監職務內ノ事件ハ府知事縣令警視總監ニ請願スヘシ府知事縣令警視總監ノ指令ニ服セサル者ハ主務卿ニ請願シ主務卿ノ指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルコトヲ得

各省卿職務內ノ事件ハ其卿ニ請願スヘシ其指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願ス

ルコトヲ得

第三條　凡ソ請願スル者ハ書面ヲ以テスヘシ口陳スルコトヲ許サス官署ノ求メニ應シテ開陳スルハ此限ニ在ラス

第四條　請願書ハ請願人自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ戸長ニ請願スル者ヲ除ク外住所戸長ノ奥印ヲ受クヘシ其連名ヲ以テ請願スル者ハ各人自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ其總代又ハ請願發起人アルトキハ其由ヲ肩書スヘシ戸長ノ奥印ヲ受ルハ前ノ例ニ同シ

第五條　府縣郡區總代又ハ結社總代ノ名ヲ以テ請願スルコトヲ得ス

但成法ニ制定セラレタル會社ハ此限ニ在ラス

第六條　請願書ヲ上呈スルニハ代人ヲ以テスルコトヲ許サス數人連名スル者ハ請願人中ニ於テ三名以下ノ總代人ヲ撰ヒ之ニ委托スヘシ

第七條　請願書ハ郵便ヲ以テ上呈スルコトヲ得

第八條　上司ニ呈スル諸願書ニハ其經歷スル所ノ官署ノ指令書ヲ添フヘシ

第九條　請願書ノ郵達ヲ得タル各省若シ其主務ニ非サルトキハ直チニ之ヲ主務省ニ移シ其由ヲ請願人ニ通知スヘシ

第十條　太政官ニ於テ請願ヲ裁可スルトキハ主務省ニ付シテ處分セシムヘシ

第十一條　太政官ノ裁令ヲ經タル者ハ更ニ請願スルコトヲ得ス又裁判所ニ訴フルコトヲ得ス

第十二條　請願ヲ名トシテ行政處分ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條　凡ソ事ノ建白ニ屬スヘキ者ハ人民各自ノ利害ニ係ルヲ以テ請願スト雖モ受理セス

第十四條　行政處分ノ既ニ五年ヲ經タル者ハ請願ヲ受理セス

第十五條　請願人第二條ノ順序ヲ經ス及第三條第四條第五條第六條第八條第十一條ノ規程ニ循ハサル者ハ受理セス

第十六條　請願書ニ侮辱誹毀ノ語ヲ用ヒ及第二條ニ示ス所ノ官署ノ外ニ向ヒ請願スル者ハ受理セス

第十七條　條規ニ違ヒ受理セラレサルノ請願ヲ以テ強テ受理ヲ請フ者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス其連名請願スル者ハ情ヲ知ラサル者ヲ除ク外各人均ク罪ヲ論ス其發起人ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス若シ請願人ノ外教唆者アルトキハ發起人ト同ク罪ヲ論ス

其嘯聚ニ涉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス

第十八條　請願人官吏ニ對シ抗論シ喧擾ニ涉ル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

其侮辱ニ涉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス

第十九條　請願書ハ新聞紙其他ノ文書ヲ以テ公行スルコトヲ許サス犯ス者ハ罪前條第一項ニ同シ

第二十條　請願ニ由リ人ヲ誣告スル者ハ刑法ニ依テ處分ス

右奉　勅旨布告候事

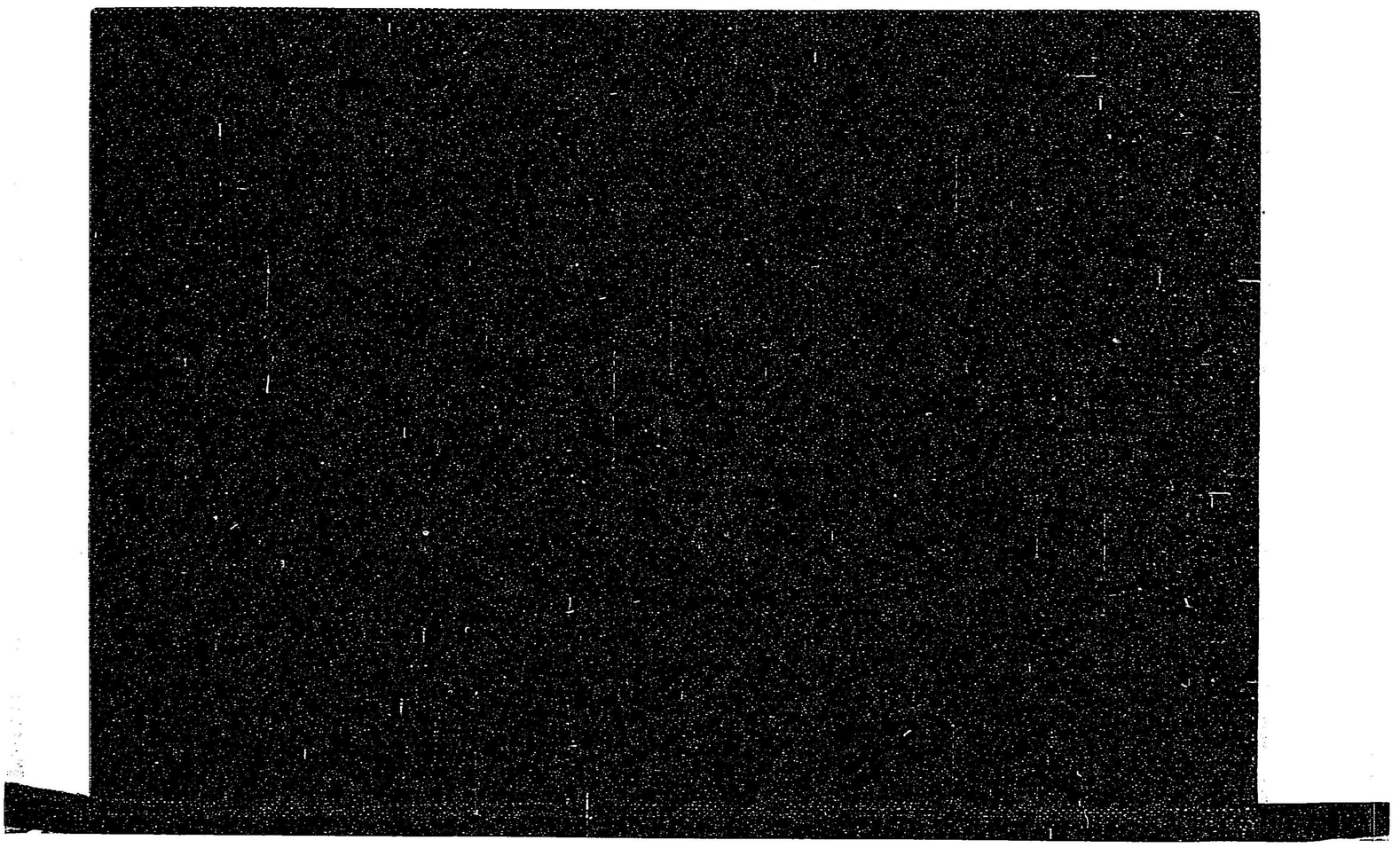
		正	誤
十三丁八行		「製」ハ表。ノ誤	
十六丁十二行		「鉛其他」ノ鉛。ノ字ハ衍	
九十九丁十一行		「傳」ハ傳。ノ誤	
百八丁四行		「以下一年」ハ以上。一年ノ誤	
百十四丁一行		「他人ノ爲メ」ノ下ニノ字ヲ脫ス	
百九十七丁十二行		「成」ノ下例。ノ字ヲ脫ス	
二百六十丁八行		「貳拾錢」ノ拾。ノ字ハ衍	
二百九十丁十行	鼇頭	「誓詞ノ」ノ下件。ノ字ヲ脫ス	
同丁十三行		「之ヲ」ノ下領。受。シテ。ノ四字ヲ脫ス	
二百九十九丁一行		「方テハ」ハ於。テハ。ノ誤	
三百九丁一行	鼇頭	「各號」ハ名。號ノ誤	
四百二丁十行		「公布」ハ公告。ノ誤	

四百五十八丁十一行　「郵便」ハ郵便ノ誤
四百八十一丁十一行　「候」ハ候ノ誤
五百五十一丁十二行　「候上」ハ候上ノ誤
五百五十四丁十二行　「金穀」ハ金祿ノ誤
五百七十九丁八行　「權限ヲ」ハ權限ヲノ誤
五百八十三丁五行　「郵便」ハ郵船ノ誤
五百八十八丁十二行　「手續料」ハ手數料ノ誤
五百九十一丁一行　「ミ」ハヤノ誤
六百五十五丁九行　「高金」ハ金高ノ錯置
七百五丁九行　「ノ屆出」ノ下ヲノ字ヲ脫ス
七百十丁十三行　「顯ニハ」ハ顯ハニノ錯置
八百十五丁七行　「義」ハ儀ノ誤
八百三十一丁十行　「頓」ハ噸ノ誤

八百五十六丁五行　「時」ハ者ノ誤
同　丁　六　行　「者」ハ時ノ誤
八百五十八丁第十二條鼈頭ハ第十一條鼈頭ノ錯置

明治十六年二月五日出版版權屆

10-294



35
4

禁電子式複写